



終了後深谷駅前で新米と豚汁のお昼です

小湊菜の花プロジェクト

小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせて利用者に楽しんでもらい、最近利用者が激減している？我等のふるさとに唯一残された公共交通機関である小湊鉄道を少しでも活性化できたらという想いで実施された「菜の花プロジェクト」

夢の菜の花ロードだ！

小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせて利用者に楽しんでもらい、最近利用者が激減している？我等のふるさとに唯一残された公共交通機関である小湊鉄道を少しでも活性化できたらという想いで実施された「菜の花プロジェクト」

原市役所の窓口がやはり同じ担当者であったのである。各種資料を取り揃え、何か良い知恵はないものかと、議論百出の所へ運良く？出てくわしてしまった。

そんななかから出てきたのが「小湊沿線を花で一杯にしてみたらどうか」という意見。

実は昨年にも佐是あたりに種をまいたのだが時期が遅くて発芽があまり良くなかったとの事。

菜の花の種をまく程度なら何も大げさにしなくても出来るだろうという事で今回の実施に至ったという次第。打ち合わせを重ねるうちに「市民参加型のほうが良いだろう」

「広報いちばらで参加者を募集しよう」

「参加者は小湊線まで下つてもらったほうが面白い」

「新米の時期だから飯を振舞おう」

「飯だけじゃつまらないから、トン汁とバーベキューも付けられないか」

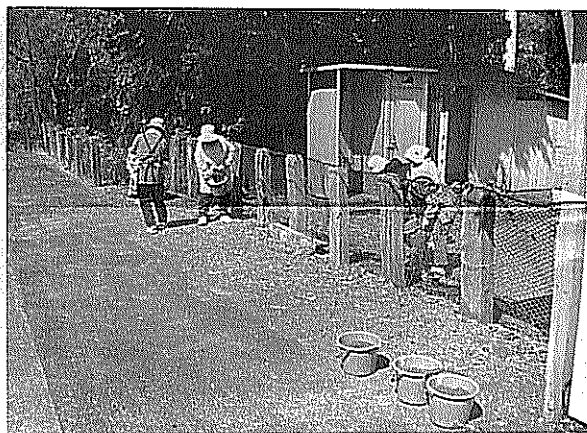
となり、駅の担当者を決めたり役割を分担したりとなりました。

9月17日(土)天候にも恵まれプロジェクト実施。スタッフは8時30分に鶴舞駅に集合して種まきの段取り。参加者は9時22分五井発の下り列車に乗り込む。小湊鉄道のこの厚意で乗車賃は無料。(当然か?)

鶴舞、高滝、里見、飯給、月崎、大久保の各駅でグループごとに降りてもらい作業にあたる。次の下り列車で養老溪谷駅に向けて乗車。昔は1時間に一本は走っていた小湊も今では1時間40分に一本。作業時間は充分とれたが列車利用者には不便だろうと再認識。

12時01分深谷駅に参加者が着く頃には新米も炊き上がり、トン汁とバーベキューも準備ができていた。なんと行き届いた設定だろう。市職員とボランティアスタッフも合わせて約100名での昼食会となり、いい汗を流した後

の食事はなんとも心地よく感じられました。



加茂のおばあちゃん達も大活躍！

菜の花満開の 来春が待ち遠しい

このプロジェクトに参加してくれた加茂地区の方は12名。内田の市職員が米を提供してくれたのを始め、牛久の南市原応援団、市原青年会議所の方たちのご協力もあり種まきも無事終了。来春の菜の花が楽しみです。

今回参加してみても感じたことは加茂地区の方に声をかけることの難しさでしょうか。誘えば、もつと、もつと地域の参加者が増えたことは容易に想像がつきます。しかし一軒々電話を掛ける訳にも行かず手紙を出すこともできず、ざりとて回収板を回す事の作業量もこなせず、里山通信の発行もタイミングが合わない。まして小学校は運動会。たまたま会った人にお願ひしただけしか出来なかった訳で情報伝達の難しさを実感。子供の頃に在った有線電話でもあれば放送が出来ただろう、などと考えております。

きちんとした事務局があり、ボランティア登録でもしてもらってメールやFAXで一斉に情報を流せる様になつていればこの辺は解決できるでしょうがFAXが入っている家庭の率は増えたとはいえず高いものではないだろうし、メールとなるととつとつらだろうか？地域の善意を集めるための情報伝達の良い方法はないものかとあらためて感じております。

(大曾根里山通信員)

がんばれ！青年団

で語りあつて親睦を深めています。

主な活動内容は、六月に万田野町会の祭礼への参加、八月は盆踊り大会、十月は高滝神社祭礼の神輿担ぎ、十一月は里見地区の各青年団によるソフトボール大会へ参加をしています。また、町会内にあるごみステーションのペンキ塗り等の奉仕活動も行っています。特に、万友会のメイン活動である納涼盆踊り大会は、万友会シンボルである燃える様な赤地に、背中には横綱絵柄の半纏を着て毎年八月十三日に婦人会、子供会、消防団等の協力を頂き昨年までに、十六回行ってききました。

今年から、「社会福祉法人昭和村」が万田野町会内に移転して来た事で、万友会と昭和村の皆さんと一緒に昭和村の広場で行う事になりました。当日は、市長をはじめ多くの来賓の方と町会や里見、白鳥地区、また地区外等から約千人近くの来場者で会場は大盛況でした。また、盆踊り大会を通じて、昭和村の職員や入居者、そして来場者とふれあい、交流を深める事が出来たと思います。

以上の様な活動を行っています。今後とも万友会会員は、一丸となつて町会や地区の発展と活性化に精一杯頑張つてまいりますので、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(会長 佐久間 茂男)



鋭やかなハッピー姿の佐久間会長

万田野万友会

万友会は、万田野町会の青年達の集まりによって昭和六二年に、会員相互の連帯と親睦をはかることを目的とし発足した会で、今年で早十八年になります。会員は、発足当時三十人以上いましたが、年が経つにつれてだんだん減ってきて、現在は二十二名の会員で構成しています。

会は、定例会議を奇数月の第二土曜日の夜(原則)に情報交換等交え行っています。会議終了後は、酒やビール等飲みながら、時には十二時、一時まで語りあつて親睦を深めています。

年賀葉書のお買い求めはお近くの郵便局で

電気料・電話料・水道料などのお支払いは 郵便局の自動払込み
各種年金のお受取りは 郵便局の総合通帳「ば・る・る」で自動受取り

人生80年時代をしっかりとサポートする終身保険 「かんぽのながいきくん」

※ いろいろなキャンペーンを実施して、皆さまのお越しをお待ちしています。

郵便局
POST OFFICE

里見郵便局(飯 給)(電話96-0001)
加茂郵便局(大久保)(電話96-1001)
高滝郵便局(養 老)(電話98-0001)

より豊かで快適な
社会環境づくりを目指して

人と環境をどこまでも大切に。実り多き未来へ、
杉田建材は、地域の皆様と共に歩み続けてまいります

杉田建材株式会社

本社ビル 市原市万田野 2 6
支店 市原市惣社 1-1-22
支店 市原市牛久 450-1
支店 木更津市吾妻 2-7-20
TEL.0436(96)1311
TEL.0436(24)0511
TEL.0436(50)0111
TEL.0438(25)4434

イカダだっ！

さてこの平成九年の年は山崎ハコのコンサ
ートだけでなく、第一回の養老川高滝湖イカ
ダ大会がありました。これは加茂青年部の主催
というわけではなく、それまで「ミズ市原コ
ンテスト」の運営に携わっていた市原商工会議
所青年部の全体会の主催でした。ミズ市原コ
ンテスト」が中止となったその年、五つある青
年部の全体会の幹事役が回ってきていたのが
加茂青年部でした。

「ミズ市原コンテスト」はコンテス
トそれ自体よりもそこに至る何度か
の会議や運営を通して他の青年部の
メンバーとの交流が深まるという点
に大きな意義があったので、それに替
わりうるものは何かと考えました。

計画実行のために何度か集まる必
要があり、当日みんなが楽しめるもの
はないかと考えていた時にふと浮か
んだのは、本通信員の戸澤君がある
きしやべつていた小さな夢でした。そ
れは子供たちをイカダに乗せて養老
川の上流から下流までゆつくり一日
掛けて下つてみたいというものでした。
みんなでイカダを作つてそれをやっ
てみたら楽しい一日が過ごせるので
はないか。そういうつもりでイカダの
提案をしてみたところ、熱心な会議所
の事務担当者が白子ではイカダ競争
をやつていてという情報を手に入れ
てきたり、やるなら競争にしたほうが
盛り上がるだろう、みんなに見えるところで
やつてアピールしよう、のぼりを立てたほうが
見栄えがする、だったら養老川と環境に関する
標語をのぼりに書こう、その標語も審査対象に
しよう、ただ速さを競うだけでは面白くない、
速さも含めてデザインやパフォーマンスなど
も審査対象にして、それぞれに賞を設けて総合
優勝をきめよう、いつのまにか当初の単なる
イカダ下りは姿・形を変えて話はどう進ん
でいったのでしょうか。

間が中心となってイカダ作りが始まったのです。
かくして、高滝湖を使った、養老川高滝湖イ
カダ大会は晴天の下、第一回が開催されました。
第一回目の優勝は、速さにおいてダントツ、デ
ザイン・パフォーマンスでもトップとなった加
茂青年部の「大吟醸丸」が受賞しました。大会を
終えた後は定番ともいえるバーベキュー大会
でなごやかなひとときを過ごしました。ところで、
このときのイカダ大会で本当に悔しさを見せ
ていた人間が高滝湖和会にひとり、五井青年部
に二人くらいおり、この人間たちの悔しさが原
動力となり、翌年、その次の年へとイカダを進
化させ大活躍することになり
ます。

加茂青年部は 何をしてきたのか

PART2

このイカダ大会は計四回行われ、
加茂青年部は総合優勝二回、総
合準優勝二回のほかデザイン賞
や標語賞、パフォーマンス賞な
ど輝かしい成績を残しました。
しかし、各青年部の温度差が顕
著になってきて終わってしまったのは
残念でした。競争という形ではなく、一
度くらいみんなで日がな一日ゆるやか
に養老川を川口まで下つてみたかっ
たなあとあります。そこにはまったく別な
楽しさがあったのではないかなと思
うのです。また、イカダ大会は加茂地区だ
けで各地区の青年団組織に呼びかけ
てやたら、横のつながりが何もない今の
状態のままでなく、お互いを知り、つ
ながりを作るきっかけになったのでは
ないかなとも思います。

時代は沖縄だ！

さて平成九年から始まったライブとイカダ
大会という夏から初秋にかけての二大イベン
トは平成十二まで続きます。

平成十年は沖縄民謡をせひやりたいという
思いがあつて、ネーネーズの元リーダー古謝美
佐子と大工哲弘とのどちらかということにな
りました。今回はつてがりました。沖縄に友
人がいて、彼の中学校のひとつ下の後輩が古謝
美佐子で、ラジオの仕事をしていたときに知り
合ったのが大工哲弘ということでした。問題は

沖縄からこままでの渡航費用でしたので、何と
か本土での別なコンサートがらみで来ていた
だくということが条件になりました。結局、大
工哲弘でいこうとなり、高滝湖野外音楽堂で初め
てサンシンと呼ばれる沖縄三味線が響きわた
りました。

ところでこの時はまだ知らなかったのですが、
この大工さんと一緒に来たキーボード奏者の
佐原さんという大阪に住む人が、実は古謝美佐
子のだんなさんだったのです。さすがに大工さ
んや佐原さんのいるところで「本日は古謝美佐
子を呼びたかつたなどと話すわけにもいかず、
一切その名を出さなかつたのですが、今思うと
話を聞くチャンス逃して残念でした。という
のも古謝美佐子はネーネーズとして売れてい
たにもかかわらず、沖縄民謡それも源流となる
八重山の民謡をもっと学びたいということ
で脱退していたからです。(ところでネーネーズ
が歌つたボブ・マーリーの傑作「ノーワーマン・
ノークライ」はレゲエのバラッドナンバーを沖
縄民謡風にアレンジしたのですが、これは本
家よりもシットリくるぐらに自分たちのも
にしてしまった傑作です。) 大工さんは沖縄で
民謡教室もいくつかに開いて活躍していますが、
異色なのは現職の那覇市の市役所職員だとい
うことです。古謝美佐子さんはその後八重山民
謡を学ぶ姿がNHKで特集番組として放送さ
れました。今でも活躍しています。

ところで、前編後編で終わりにできると思っ
ていたこの記事ですが、書いてみたら長くなり
もつ二、三回続きそうです。お付き合いください。
(征矢里山通信員)



市内各団体の趣向を凝らしたイカダが勢揃い
皆が熱くなった養老川高滝湖イカダ大会

楽器挫折者救済合宿in月出小

見栄ぞ！永遠に！

昨年に続き今年の夏も「楽器挫
折者救済合宿」が月出小学校(黒
沼純校長)にやってきました。

今回は、県外からの参加が11名、
県内2名、市内1名。なんと、最も
遠い人は姫路市からの参加である。
男性8名に女性6名、年齢を見
ると下は17歳から上は53歳
までとバラエティに富み、楽器も
エレキギター、アコースティック
ギター、アルトサックス、ベース
にドラムと様々だ。

8月26日金曜日。千葉が台風
11号の直撃により特急が運休
となったため、東京駅を出発した
一行は、快速を千葉で乗り換え内
房線で五井へ、小湊線で月崎駅ま
で来るはずだったが接続を逃し
てしまい、上総牛久保までバスで
迎えに行くことに。30分ほどの
ローカル線の旅ではあるが、工場
地帯を背にひとたび発車すれば目の前はたち
まち田園風景である。上総牛久保に着く頃
は台風一過の青空が広がり、真夏の暑さが戻
ってきた。

会場の月出小学校まではバスで20分ほど
で着く。昼食を兼ね、スケジュールの確認と自
己紹介をおこない、さっそく練習が始まる。こ
れから音楽漬けの三日間である。練習は、参加
者それぞれの習熟度にあわせて内容である。
まったくの初心者、途中で挫折した人、さらに
レベルアップを目指す人と色いろいろだが真剣な
表情は同じだ。

練習を終えて宿の「岩風呂」に着けば待つて
いるのは風呂と食事だ。初対面の固さもとれ
て和気藹々とした雰囲気になってくる。みな
音楽が好きなのだ。食後は雑談もそこそこ
就寝時間まで練習が続いた。

二日目(27日 土曜日)。合宿の一日は出世
観音までの早朝ウォーキングではじまる。朝
食後バスで月出小へ。バンド編成と課題曲が



全国から月出に集まった！

告げられ個人練習からバンド練習へとステッ
プアップする。普段使わない筋肉や指先が痛
んでくる人もおり、湿布薬と絆創膏は合宿の
必需品になっている。

三日目(28日 日曜日)。合宿の成果を披露
するときは、バンドごとに最後のリハーサル
をおこなう。見ているほうにも緊張感が伝わ
ってくる。二人の在校生をはじめ、多くのギヤ
ラリーが会場を埋めてくる。発表会の仕上がり
具合は人それぞれだが、いずれにしてもこの
合宿に参加しなければ知り合うことがなか
ったであろう仲間との貴重な時間だ。二日前
には想像もできないレベルでかなりの難曲を次々
とこなしていく。これが「合宿」のマジックな
のだらうか。途中生徒も一曲演奏に加わったが、
三日間ずっと一緒に参加者たちともすつかり
打ち解けた様子である。

来年、二人が卒業すると月出小には生徒が
いなくなる。その後、この校舎をどう利用して
いくかはまだ決まっていらないようだが、ぜひ
地域のために有効活用していただきたいものだ。
である、そして、願わくばその中に月出小合宿
が加えられんことを。

さて、発表会が終われば鶴舞青年の家の野
外活動施設に会場を移し、恒例のバーベキ
ュである。緊張から開放され、飲み物を手に仲
間たちと過ごす最後のひと時だ。女性参加者
の目に光るものがあつたのは、決して煙のせ
いだけではないだろう。振り返ってみれば、や
はり、至福の三日間だったのだ。

(北 里山通信員)

花火大会後始末記 05

今年の花火大会は快晴の下、きれいに花火を見ることができました。花火も例年よりは内容がよかったです。人出も昨年よりも多く、たくさんの人が花火を堪能できたと思います。

先の通信で紹介した通り、今年の特徴は記念花火の打ち上げと協賛金を出した人への優遇策でした。記念花火は一回目のこともあり花火師と主催者側の連携ミスのようなものもありましたが、これは回を重ねれば洗練されたものになるでしょう。記念花火への参加者はまだ少なかつたようですが、より多くのの人に認識されれば増えると思います。

また、ある程度以上の協賛金を出した人には招待席が設けられ、飲み物のサービスなどもありました。間近で見られる場所が用意されているだけでなく、飲み物が出され、さらに後日花火大会の様子が映されたDVDが郵送されてくるということでも、それなら一万円くらいの寄付は安いもんだ、あんなことねえ」という声も聞かれました。ただ招待席は見上げていて首が疲れたという声もありました。今まで協賛金を出し続けていながら何の優遇策もなかったことから比べれば隔世の感があります。が、今までがおかしかったのであり、やっとあたり前の対応になったのかなという気がします。多くの人はただで見る一方、一部の人はちがうにお金を出し続ける、税金も使われているとはいえ、税金はみんなが出してしているわけですから、そこにある不公平感を少しでもなくす方向に動いたということは大きな進歩だと思えます。

人がたくさん出て、きれいな花火ではあったものの、ゴミの問題は残ります。例年にも増して多くのゴミが残りました。夜のうちに生ゴミの分別をするのは定番となってきましたが、翌朝六時からの清掃では残骸を目の当たりにすることになります。市の職員の方も一生懸命やってくれましたが、去年今年と光ったのは高滝周辺の町会長さんたちの活躍です。それだけでなく普段から会議やら催しやらに

頻繁に刈り出されて大変な町会長さんたちが、花火大会の役員にも登録されているため、翌日の掃除にも刈り出されてしまった、しかし率先して生ゴミの分別をはじめゴミ拾い等もされていました。一般の人たちがまだ眠っている時間帯からの活躍には頭が下がります。本当にご苦労様でした。

(征矢里山通信員)

加茂の車窓から



助健家車

ぼかぼか陽気で、気分まで「ぼかぼか」しそうな季節になりました。あつ、しそうな「ぼかぼか」は、ぼかぼかしてではなく本当にぼかぼかしてました。そんなある日のこと、仕事から車の納車の帰り道、赤信号で信号待ちをしていると、前に一台の軽トラックが信号待ちしていました。そのリヤガラスに、黒地に金文字で怪しいステッカーが、よく見てみると、そこには、「鮎研会」と書かれており、私なりの解釈で、「怪しい団体? いやいや、浜崎あゆみ親衛隊?」と、こんな時代でも、「暇な人もいるもんだな」とか、「どうせ貼るなら自社のステッカーでも?」などと、勝手な空想をしながら、自社までたどり着きました。

そして数日後、五井の市役所通りを走っていると、またまた、同じ「鮎研会」ステッカーを貼った車が、そして牛久にまで出た! しかしステッカーを貼ってある車は、軽トラック、軽の箱バン、時には、軽の4WD車。そしてある日、私の地元である養老溪谷でも発見! しかし、またまた軽トラックに、それも仕事が終わって一杯飲もうとたどり着いた、割烹大新の自家用車ではありませんか、そしてよく見ると、千葉・養老川・鮎研会、そうぞう! 釣りきち集団でした。そして、一杯飲みながら、大新さんに鮎研会について話を聞くと、これ

がまた、こだわること、「釣竿が、何十万円」とか、「養老川の鮎は、どこかの川より小さいが味や香りはいい」とか、話題をこちらから変えなければ、何時間でも鮎について、語っていきなうらな情熱的に話してくれました。そして私が、思い遠くを走っていることに気づきました。「釣りきち集団」ではなく、「釣りバカ集団」でした。(そしてビール一杯のつもりが...) 会員の方々も数十人いるらしく、鮎釣り好きな方は、随時、会員募集中! 年に何回かは研究会? (別名、「丘釣り会?」) ければかりは、鮎も「さかな」ですが、荷造りでは? と、いろいろ活動しているようです。来年には、「鮎釣り大会」も企画とか。もし、興味のある方は、「鮎研会」のステッカーの貼ってある車を止めるか、または、先程の割烹大新さんにでも、お話を聞いてみてください。ちなみに、他にもこの様な活動されている方々がいると思いますが、「ぜひ、加茂里山通信に」と、思っている方がいれば、遠慮なく御応募ください。最後にお話を聞かせてくれた大新さん、長時間ありがとうございました。おかげ様で飲食代、足りませんでしたので、後日お支払いに... (笑)

千年杉がもたらえるよ

P.S

大新さんで、鮎釣りの話をしている時に、大新町小田代の方で、中村昭夫さん材木店経営者が、この加茂里山通信の話を聞いてくれました。それならば、「私は隣町ですが、協力しますよ。」と、言ってくれまして、読者の方、なんと先着10名様に、天津小湊の清澄寺から伐採した、樹齢600年、700年の杉を製材加工(看板・机板)した物を、「プレゼント」してくれるそうです。私も一度、拝見させて頂きました。これをプレゼントですか! 「という位の立派な製品でした。本当に、ありがとうございます。」

(小茶里山通信員)

くっちゃんめ騒動記

7月20日号の「国産産直こぼれ話」で書いた蛇屋の話ですが、後日談の紹介です。

三和の方から電話があり、「里山通信でマムシの話を読んだのだが、今年は庭にもマムシが出て困っている。是非、蛇屋さんを紹介してくれ」との事。早速連絡を取り、直接相談してもらった。その後蛇屋と話をしたところ「現地にやって見たら、なるほど蛇のいそうな地形なので、一晩捕獲に行ってみました。シマヘビ1匹捕ってマカガシを取り逃がしたんですが、マムシもいっぱいいる筈です」とうれしそうに報告しやりました。

近くの蛇が多いといわれる場所も何箇所か教えたんですが夜な夜な(蛇は夜行性)捕獲に行っているみたいです。

ある晩は猪に出くわして怖い思いもしたらしく「気配がしたので懐中電灯を向けたら、3メートル先にデカイ猪がいて命が縮まりました。なんてこともあったらしい。

高滝では4匹の取引。マムシの雄雌の見分け方を教えてもらいましたがこの先なんの役に立つのかわかりません。

国本には蛇捕り名人がいます。この人は手でマムシの頭を捕まえてしまう特技の持ち主。マムシを見かけたら他の人のためにも始末するのが田舎の暗黙の了解。なんと今年は6匹も捕まえたそうです。

そのうち1回は指先を噛まれ、市民病院で点滴まで受けることに。幸い厚手のゴム手袋をしていて牙が触れた程度の軽症で大して腫れることもなく済んだそうですがその噛んだマムシもきちんと捕獲していることがなんともすごい。

6匹とも蛇屋に引き取ってもらいましたが一升瓶から取り出しながら解説するには噛んだヤツはオスだそうで国本産直の店先でオスの証拠まで見せてくれました。ちょっとしたスネークショーみたいなサービスも、居合わせたお客さんも店主も遠巻きに見るしかなく逃げられる体勢。恐々写真だけとっては見ま

たが...
これから蛇たちも冬眠に向けて気が荒くなります。読者の皆さんもご注意ください。
(大曾根里山通信員)



ログホーム説明会開催

HONKA H The World Leader in Log Homes

1日4組様限定・完全予約制

随時受付中

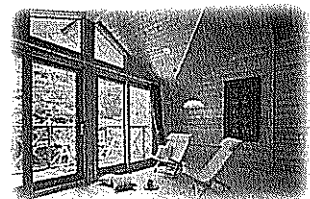
説明会参加のお申し込みは、下記の電話またはホームページからご希望の日程をお申し込みください。

TEL 0436-95-5641 24h/7日-会費無料 完全予約制
HP www.honka-bouso.com

認定ディーラー ホンカ房総 太陽工業株式会社 ログホーム事業部 ISO9001:2000認証 建設業許可:千葉県加号1052

T 290-0221 千葉県市原市馬立414-1 TEL:0436-95-5641 FAX:0436-95-2235 e-mail:log@taiyo-ken.jp

www.honka-bouso.com



ホンカ房総の説明会は、オーナーファミリーの皆様全員にご招待いただけるよう、完全予約制で完全マンツーマン対応で行います。ホンカ房総はオーナー様の「真摯な時間」は、すでにご検討の段階から始まっていると考えております。ゆっくりとホンカ・ログホームの生活を感じ取ってください。

加茂米くらぶ だより

昔では、キンモクセイの香りが何処からともなく風にのって流れてくるようになり、すっかり秋めいてきました。

先日の台風や雨で、今年の稲刈りは皆さんご苦労された様ですが、高滝小のもち米は、指導者杉田君の適切な判断で品種と肥料やりがうまく具合にいき、見事なぐらいいしつかりと立ち、黄金色の稲穂をつけてくれました。

9月28日、全校生徒総出で稲刈りをし、おだけにする事が出来ました。習うより慣れろのことわざどおり米づくりも3年目、5、6年生の手つきは格段に進歩しました。またいつもながら協力してくださるO・Bのみなさんには感謝申し上げます。例年どおり小学校のバザーの折には、高滝小おだけ米として販売しますので皆さんのお越しをお待ちしております。

9月30日、2年ぶりにニュージーランドのパバクラ市より12名の訪問を受け交流学習が行なわれました。子供達はそれぞれ日本の伝統文化や遊びなど一緒に体験することができました。習字やお茶、生け花などパバクラの方々には非常に興味を持って参加していただき、小さな文化交流ができたようです。ちなみに、空手のかまへはどんなに教えてもへつり腰にばかりませんでした。

べっぴん語ブラス

11月6日、加茂支部主催「消防わくわく広場」が高滝小学校にて開かれます。昨年同様はしご車などたくさん消防関係車両も来ます。又模擬店なども同様です。ご家族そろってお越し下さい。はしご車などの体験もできます。「こしも消防団があんだかやるつちからみんなであつてんべ。おらー去年ははしご車乗ったでけんが、みんなのちがってよーほんこんおつかねーしよ、あんげいたけいだよ。おめいも今年のはつかつてみるよ」
「あにいてんだよ、あのくれいあんちこつてねーべ、ばかはなんとかつてゆべ、こどもんころからおらーたけいとこはでいじようぶだよ。そんでよーせがれもてつてかんおめーもてつてこーよ」
(戸沢里山通信員)

魚屋の戯言

鮭が美味しい季節になりました。

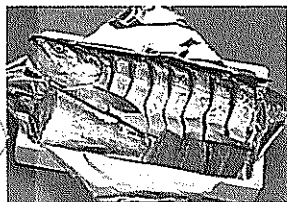
北海道では鮭の事をアキアジと呼びますがその語源は秋の鮭ではなく、アイヌ語で秋の魚という意味のアキアチツプという言葉から来たそうです。多少強引ですが漢字で書くのなら秋味がふさわしいかもしれません。

日本の近海で豊富に獲れるので値段も安く古くから日本人の食卓になじみ深い魚ですが案外美味しい鮭を選ぶコツをご存知ないお客さんが多いのも事実なんです。鮭を選ぶ時は皮を見て下さい。銀色に光っている鮭は海で獲れた鮭で脂が充分に乗っているのに対し、産卵期を迎えて川に戻った鮭は餌を食べなくなるのですっきり脂肪が抜けてしまつて美味しくありません。この時期の鮭は皮が薄い緑色になり、紫や茶色の斑点模様ができていますので慣れてない方でも一目で区別できると思います。市場では銀色の鮭を銀毛、斑点が出ているのをホツチャレなどと呼ぶ事もあるくらいです。



料理の方法はおなじみの塩鮭、フライ・ムニエル・照り焼きなどがありますが、これからの季節でしたら石狩鍋がお勧めです。昆布でダシを取り、白菜やきのこ類の野菜をたっぷり入れて生の銀鮭と一緒に味噌で味つけして食べる石狩鍋は我が家に來てくれた友人や親戚に文句を言われた事がありません。

年の瀬になると新巻鮭がご贈答用に喜ばれています。鮭という魚は川で生まれて海に出て行き、立派に成長すると生まれ故郷の川に戻って産卵をする為これを人に例えて縁起のいい魚とされたと聞いています。今は室内の暖房が完備して昔のようは一週間も神棚に下げておく事ができません。頂いたならなるべく早く食べきるか、切り身にして冷蔵庫で冷凍庫で保存して下さい。



鮭と言えば忘れてならないのはイクラと筋子です。日本酒とみりんを火にかけてアルコール分を飛ばしてから醤油と合わせた漬け汁に2〜3日置いておけ

ば美味しい醤油漬の出来上がり。暖かいご飯の上にのせてイクラ丼にしてもいいですし、大根おろしとあえても大変に美味しく召し上がれます。簡単にできますしイクラや筋子も豊富に出回っていますから是非お試し下さい。
(鈴木里山通信員)

里山通信員紹介

大曾根友三



(おおそね ともぞう)
最後の加茂青年部の部長を務め、そこから移行した加茂里山通信編集部長として並み居る曲者をまとめている。かつて市原青年会議所の唯一の加茂地区出身者として活躍。後に理事長を務める。またミズ市原コンテストではタキシードに身を固め司会をしたこともあり、そのときどういう訳か前フリとして、黄色と黒は工事の印」の名文句とともに自己紹介。青年会議所当時のメンバーを中心に業界や役所などに多くの人脈を誇る。その会議などに時折べっぴん語を織り込んで場をなごませ親近感をもちたせしまうという必殺技を持つ。若くして太陽工業の社長に就任し当初は苦労したもの、その苦労が今になって大いに役立ち、若いのに社長歴が長く、多くの従業員の親方としての信頼を勝ち得ている。最近産直の親方まで始めて、お客さんと直接接する楽しさをしみじみ味わっている。加茂地区への熱い思いを持ち、いまも活性化やコミュニティバス運行実現のためにもがいているところである。クールに見えながら、かつて「金八先生」を欠かさず見ていたという感激屋でもある。おそらく、あの有名な放送室占拠事件で中島ゆき子の「世情」が流れる中、警察に連行されるマサルたちを見ていて、一人涙を流したことがある。

若いころの酒での武勇伝は数知れず、あるころ某方面のブラックリストにのったこともあった。最近某吟詠会の影響か、静かに酒を語るようになった。自他共に認める愛妻家の四十五歳である。
(征矢里山通信員)

折津大山祇(おやますみ)神社 百余年ぶりに石段改修される

折津「秋葉商店」さんの前を通ると、店とは道路を隔てた反対側の山の斜面に、とてつもなく急勾配な長い階段を見ることが出来ます。それは、その上にある「大山祇神社」の石段です。この神社の由来は、愛媛県大三島の大山祇神社が本宮ではないかと推測される様ですが、文献等が残されておらず謎だらけです。

そして今回、老朽化した石段の改修工事が行われました。元加茂中学校校長を務められ、地の歴史に詳しい石橋道さんによると、「私の父、石橋市太郎氏が今生きていれば113才だが、生前には石段を改修した覚えが無かつたと口にしていた」と言われるように、現在残されている石段は有に100年を超えているものようです。

工費は約800万円掛かったそうで、29名の氏子の方々や折津町会の皆さんの深い信仰心や熱意が込められた大事業です。

10月末の完成予定で、段数は111段、今までより10段ほど少なくなつたようですが、相変わらずの急勾配です。それは下から見上げて上から覗いても見事な威容を現しています。皆さんもお参りしながらピカピカの石段登りに挑戦してみれば、(足に自信の無い方は、秋葉商店さんの正面から入る回り道もあるようです)

(佐久間里山通信員)

編集後記

皆さんもご存知かと思いますが、あの歴史ある月出小が、来年は在校生がいなくなり休校になると聞き、大変残念に思います。

そんな月出小を利用して昨年からはまった「楽器挫折者救済合宿in月出小」は、昨年より大幅に参加者が増え、大いに盛り上がりつつあります。話を聞いて驚いたのが、参加者の殆どが県外の方々ということです。「群馬県や「富山県」、さらに「兵庫県姫路市」の人まで...。特にスターやアイドルが来るわけでもなく、ただ楽器を弾きたいが為に全国から「月出小」に集まってくる。とても素敵な事だと思っています。

このイベントは、きりばやしひろきさんというミュージシャンが立ち上げ、全国に発信したもので、たつた3日間楽器演奏が出来るように、と言った企画に全国の素人さん達がこんなに「熱く」答えてくれたのです。

多種多様なニーズが氾濫している世の中、我々一般人のアイデアでも情報配達の活用次第で、イベントやビジネス成功の可能性はまだまだ潜んでいるように思います。

よく、何かに熱中している人に「くだらない事を」と吐く人がいますが、希望と信念を持つてする事に「くだらない」ものは一つも無いと思います。悲しいのはそれを言う人であつて、一生懸命取り組んだ経験は必ずその人の年輪となつて蓄積されるでしょう。みんな、熱中してるかな!

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へ

メールでも受け付けます

尚、紙面及び記事に関するご意見・お問い合わせは、市原商工会議所 市原市五井中央西

122-255

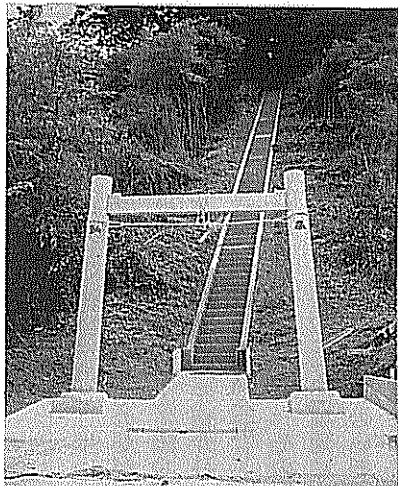
TEL(2)4305 加茂支部担当 北まで

Eメールアドレスは

kita@icciichihara.chiba.jp

HPアドレスhttp://www.yo-to-kadoyaco.jp/kamosenbu

次回新年号は1月20日発行予定です



10月末には立派な鳥居も完成します